

政務活動費支出簿

経費の範囲の項目	研修費
----------	-----

領収書 No	支出年月日	内 容	金 額	備 考
2	令和7年10月29日	第17回全国水源の里シンポジウム宿泊費	10,150	
3	令和7年10月29日	第17回全国水源の里シンポジウム現地視察研修費	3,500	
		合 計	13,650	

No. 2



海の京都

No. 3282025

領 収 書

中島 祐子 様

令和 7 年 10 月 29 日

領収金額	10,150円
------	---------

但し、宿泊費 @10,000×1 入湯税 @150×1 として
上記、正に領収いたしました。

(10%対象)

税抜金額 9,090 円

消費税等 910 円

(不課税対象)

150 円

第 17 回全国水源の里シンポジウム実行委員会 受付係
一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社
京丹後地域本部(京丹後市観光公社)
地域本部長 田中智子

〒629-3101

京都府京丹後市網野町網野 367 アミティ丹後 1F

領 収 書

中島 祐子 様

令和 7 年 10 月 29 日

領収金額	3,500 円
------	---------

但し、現地視察研修費 @3,500×1 名様として
上記、正に領収いたしました。

税抜金額 3,181 円

消費税等 319 円

第 17 回全国水源の里シンポジウム実行委員会

委員長 中山 泰

〒627-8567

京都府京丹後市峰山町杉谷 889 番地

令和7年10月1日

綾部市議会議長 様

会派名 未来のあやべ
代表者氏名 中 島 祐 子

研究研修・調査計画書

下記のとおり計画しましたので届け出ます。

記

1 日 程	令和7年10月29日（水）～10月30日（木）
2 行 先	京丹後市
3 目 的	第17回全国水源の里シンポジウム in 京都府京丹後市への参加
4 内 容	集落を超えた広域的な地域コミュニティから始まる人口減少社会における活力の創造 ～多様な人材と資金の循環による地域コミュニティの自立を目指して～
5 概 算 経 費	15,000円
6 参加議員名	中 島 祐 子
7 参考資料等	

令和 7 年 1 1 月 3 日

綾部市議会議長 様

会派名 みらいのあやべ
代表者氏名 中 島 祐 子

研究研修・調査報告書

研究研修・調査をしました結果を下記のとおり報告します。

記

1 日 程	令和 7 年 1 0 月 2 9 日（水）～1 0 月 3 0 日（木）
2 行 先	京丹後市
3 目 的	第 1 7 回全国水源の里シンポジウム in 京都府京丹後市 への参加
4 内 容	集落を超えた広域的な地域コミュニティから始まる人口減少社会における活力の創造 ～多様な人材と資金の循環による地域コミュニティの自立を目指して～
5 支出経費の内訳と金額	現地視察研修費 3, 5 0 0 円、 旅費（宿泊費）1 0, 1 5 0 円
6 参加議員名	中 島 祐 子
7 活動成果の概要、所見	シンポジウム 1 日目は京都府丹後文化会館を会場に、フォトコンテスト表彰式・基調講演・パネルディスカッションなどが行われた。 基調講演では、元岩手県議会議員で、現在は産直アプリなどの運営を行う株式会社雨風太陽の高橋博之氏が「集落を超えた広域的な地域コミュニティづくりと人口減少社会における活力の創造」とのテーマで講演を行った。これまでも「関係人口」についての講演を聴く機会はあったが、本当に有効なものなの

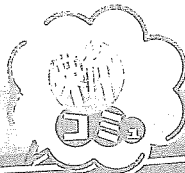
	だろうかと懐疑的に感じる部分もあった。しかし、高橋氏の実践に裏打ちされた内容は、非常に興味深いものであった。日本全体で人が少なくなる中で完全な地方移住だけではなく、二地域居住など複数の拠点を持ちながら、それぞれの場で自分のスキルを活かしていくことができる人が増えることで、その人も関わる地域の人もそれぞれの価値を共有し、みんながより幸せになれる。それを高橋氏は「都市と地方をかきまぜる」と表現。綾部市にあった「関係人口」の可能性について今後研究の必要を感じた。 2 日目は 3 つのコースに分かれての現地視察研修が実施され、丹後町の宇川（うかわ）地区での「百寿健康ウォーキング」コースに参加した。 京丹後市は 100 歳以上の人口比率は全国平均の 3 倍という「長寿のまち」。また、ユネスコ世界ジオパークに登録されている美しい海岸線やレトロな漁村の街並みがあり、「長寿」✕「自然・環境」をうまく組み合わせて、「京丹後ヘルスツーリズム」という柱を立てて観光を推進していた。丹後と言えば冬のカニが有名だが、それ以外の季節もこうした自分たちの地域にしかない特徴を上手に打ちだして観光客を呼び込もうとしている点が参考となった。
8 成果物資料等	報告資料など

上流は下流を思い、
下流は上流に感謝する

第17回

全国水源の里 シンポジウム

in 京都府京丹後市



集落を超えた広域的な地域コミュニティから始まる
人口減少社会における活力の創造
～多様な人材と資金の循環による地域コミュニティの自立を目指して～

日程

令和7年10月29日(水)・30日(木)

会場

京都府丹後文化会館 ほか



上流 京丹後市弥栄町
野間川



下流 京丹後市網野町
八下浜

10/29(水)

シンポジウム

会場 京都府丹後文化会館

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|------------------|
| 12:00 | 開場/受付開始 | 14:30 | 基調講演 |
| 13:00 | オープニング「長寿よさこい“京丹後”」 | 15:55 | パネルディスカッション |
| 13:20 | 開会式、主催者あいさつ、来賓祝辞・紹介 | 16:55 | 大会アピール、次回開催地あいさつ |
| 13:55 | フォトコンテスト表彰式 | 17:00 | 閉会 |

出演者プロフィール

基調講演

講師

株式会社雨風太陽
代表取締役社長
高橋 博之氏

1974年、岩手県花巻市生まれ。青山学院大卒。代議士秘書を経て、2006年岩手県議会議員に初当選。翌年の選挙では2期連続のトップ当選。震災後、復興の最前線に立つため岩手県知事選に出馬するも次点で落選、政界引退。2013年NPO法人東北開墾を立ち上げ、地方の生産者と都市の消費者をつなぐ、世界初の食べもの付き情報誌「東北食べる通信」を刊行し、編集長に就任。2015年当社設立、代表取締役に就任。2023年12月、日本で初めてNPOとして創業した企業が上場を実現するインパクトIPOとして、東京証券取引所グロース市場へ株式を上場。2024年11月には、内閣官房 新しい地方経済・生活環境創生本部が開催する「新しい地方経済・生活環境創生会議」の有識者構成員に、2025年6月には一般社団法人日本ファームステイ協会理事に就任。

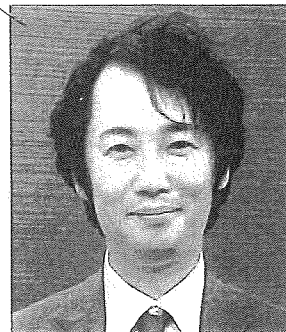


パネルディスカッション

コーディネーター

福知山公立大学
地域経営学部 准教授
杉岡 秀紀氏

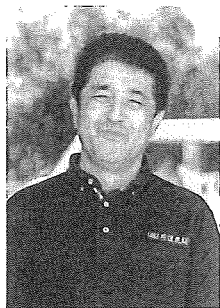
奈良県出身。同志社大学経済学部卒業、同大学院総合政策科学研究科修了。内閣官房行政改革推進本部事務局参事官付、同志社大学政策学部嘱託講師、京都府立大学公共政策学部講師を経て、現職。その他、総務省主権者教育アドバイザー、厚生労働省地域雇用活性化推進事業地域支援アドバイザー、大阪公立大学都市経営研究科非常勤講師、島根県立大学地域政策学部非常勤講師、自治体学会評議員・理事・企画部会長、日本協働政策学会理事、産学連携学会理事を務める。専門は公共政策、地方自治。主な著書に『地域力再生とプロボノ』（公人の友社、2015年、編著）、『地域創生の最前線』（公人の友社、2016年、編著）、『自治・分権と地域行政』（芦書房、2021、分担執筆）ほか。京丹後市では、まちづくり委員会委員長、総合計画審議会副会長、大阪・関西万博推進協議会会長、網野庁舎跡地活用構想検討会議委員長、公営プールのあり方検討会議委員長を務める。



パネリスト

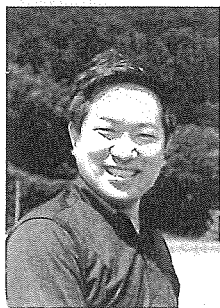
株式会社丹後乳販 代表取締役
井上 泰典氏

京都府京丹後市出身。地域に根ざした企業経営を続ける株式会社丹後乳販の代表取締役として、乳製品宅配事業を通じて高齢化地域の暮らしと健康を支えてきた。創業86年を迎える老舗企業の経営を継承しながら、「地域を支える企業であり続ける」ことを使命に、持続可能な成長と社会的役割の両立を追求。近年は、住民が気軽に集い、学び、つながる拠点として「WAKUWA健康しあわせステーション」を立ち上げ、健康講座やイベントを通じて地域の活力創出に取り組んでいる。長年培ったネットワークを活かし、企業・行政・地域が共に支え合う新たな地域モデルづくりに挑戦している。



株式会社リバイタライズジャパン 代表取締役
三本 大介氏

大学卒業後、大手医療経営コンサルティングファームに入社。医療経営コンサルタントとして、全国の医療機関、介護施設の経営改善支援を担当。2020年4月に株式会社リバイタライズジャパン創業及び現職。
①地域社会が持つコンテンツを再発見＆再構築
②地域の魅力への体感・体験をプロデュース
③持続可能な地域社会を創造
の3つを会社のミッションとして掲げ、事業を展開している。現在は、丹後地域の活性化支援、農作物のリブランディングを展開している。



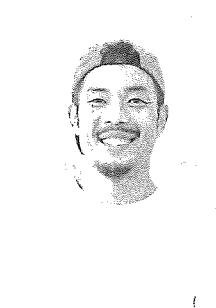
いやさか吉野地域づくり協議会 地域マネージャー
江草 智子氏

京都府京丹後市（旧丹後町）出身。地元の高校を卒業後、進学・就職のため都会で生活し、結婚後に京丹後市にUターン。弥栄町で夫と猫と共に暮らしている。Uターンをきっかけに弥栄町吉澤区の事務員となり、9年目。2019年度に吉澤区、芋野区、堤区の広域で「いやさか吉野地域づくり準備会」を立ち上げ、協議会設立に向けて取り組みを開始。2021年度から京丹後市の新たな地域コミュニティ推進事業で「いやさか吉野地域づくり協議会」を立ち上げ、地域マネージャーに就任。「みんなでつくろう おもしろい吉野」を合言葉に、地区の人たちが楽しめることを中心に考え活動している。



株式会社あしあと 代表取締役
八隅 孝治氏（元地域おこし協力隊）

株式会社あしあと代表。元京丹後市地域おこし協力隊。世界的な環境課題である海ゴミ問題に対し、「はだして遊べる海を未来へつなぐ」を使命に、ビーチクリーン活動や企業研修、学校での出前授業・講演、プラスチックのアップサイクル事業などを展開。海ゴミ問題の未来を変えるアクションとして、ビーチクリーンの職業化や海ゴミの資源化、ライフセービングの普及を通じて、海を守り、楽しみ、未来へつなぐ新しい仕事「BEACH WORKER（ビーチワーカー）」の創出を目指す。



交流会

会場 KISSUIEN Stay & Food

- | | |
|-------|-----------------|
| 18:00 | 開会 |
| 18:45 | アトラクション |
| | ①周知雅楽保存会 |
| | ②ミュージックアンサンブル花音 |
| 20:00 | 閉会 |

A 丹後町コース



宇川のまちなみ

ユネスコ世界ジオパークの美しい海岸線と
レトロな漁村のまちで
百寿健康ウォーキングを楽しむ

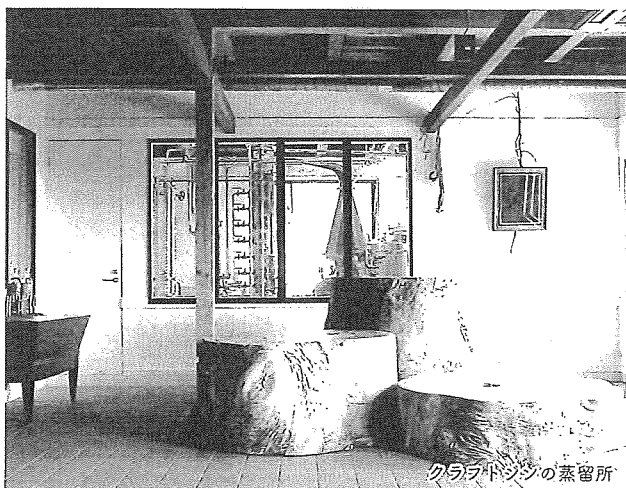
京丹後市最北端の地域「宇川」。山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの美しい海岸線、レトロな漁村のまちなみを歩き、運動・栄養・休養のプログラムを通じて、百寿者の多い京丹後市の長寿の秘訣を体感。

その後、「ふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）」を受賞した地域団体「宇川加工所」の活動拠点である「宇川アクティブライフハウス」を見学しながら、買い物支援やささえ合い交通など、「無いなら自分たちでやろう!」と地域に無いものを創り出し、大学連携の取り組みで地域の活性化を図る、地域コミュニティのみなさまにお話をいただきます。

行程

京都府丹後文化会館 ⇒ 丹後町：宇川地区「百寿健康ウォーキング」
⇒ 宇川アクティブライフハウス（うかわコミュニティの活動拠点の視察・昼食）
⇒ 道の駅てんぎ丹後 ⇒ 峰山駅 ⇒ 京都府丹後文化会館

B 弥栄町コース



クラフトジンの蒸留所

日本の原風景が息づく山あいの集落の
先進的な地域づくりと、
若者たちが挑むクラフトジンをめぐる

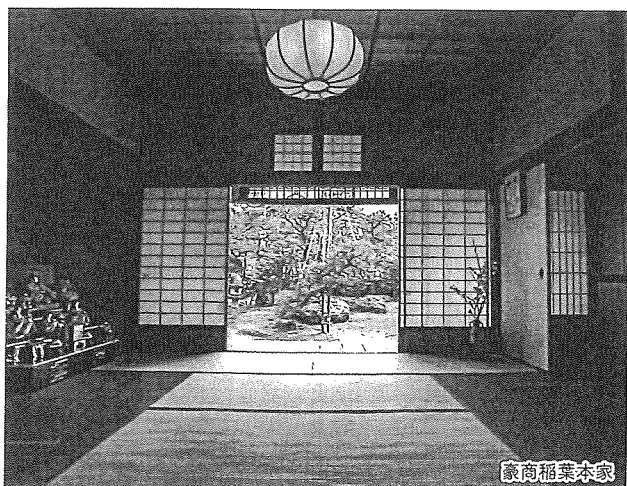
弥栄町にある野間地区は、住民が約150人。清流が穏やかに広がる山あいの小さな集落では、先進的な取り組みが数多くなされています。例えば、地元出身の起業家による最新医療機器を使ったコミュニティサロンや、地域版ふるさと納税の取り組みで購入したコミュニティバスによる移動支援。そんな取り組みについてお話を伺います。

その後は、300種類以上薬草樹が自生する森のなかで採取した植物をフレッシュなままに蒸留したクラフトジン（SFWSC2025最高金賞受賞）を製造する蒸留所へ。原料はすべて京丹後産の自分たちが採取したものに限定しているのを見学します。

行程

京都府丹後文化会館 ⇒ 弥栄町：野間基幹集落センター（野間連合区による地域活動を視察）
⇒ 京丹後森林公園スイス村・京丹後舞輪源蒸留所
⇒ 道の駅丹後王国「食のみやこ」（昼食）⇒ 峰山駅 ⇒ 京都府丹後文化会館

C 峰山町・久美浜町コース



豪商稲葉本家

日本の稲作発祥神話と羽衣伝説の地で、
伝統が息づくまちなみと、新たな暮らし方・
働き方をデザインする人々に出会う

稲作発祥の神話がある「月の輪田」と日本最古の羽衣伝説の地。「月の輪田」を巡り、その後、天女が舞い降り、酒造りと機織りを伝えたこの地で、穀物の豊穡や食物の神として信仰される豊受大神を祀っている比沼奈奈為神社を参詣したあと、天保13年より続く「玉川」の蔵元である木下酒造を見学し丹後の豊かな食について歴史と文化を学びます。お昼には、豪商稲葉本家で趣を感じながら地元食材を使ったお食事を召し上がりつつ、京丹後市地域づくり協同組合「ほむたん」の視察・交流を行います。

※「ほむたん」は総務省の制度である「特定地域づくり事業協同組合制度」を活用した協同組合で、事業者の繁忙期に職員を派遣する派遣事業を行っている。

行程

京都府丹後文化会館 ⇒ 月の輪田 ⇒ 比沼奈奈為神社 ⇒ 木下酒造
⇒ 道の駅くみはまSANKAIKAN ⇒ 豪商 稲葉本家（ほむたんの講話・昼食）
⇒ 峰山駅 ⇒ 京都府丹後文化会館

開催趣旨

私たちが暮らす水源の里は、豊かな水と緑と自然に恵まれ、水源の涵養、国土の維持・保全、良好な環境の形成に欠くことのできないものです。さらに、伝統文化の継承や、都市に暮らす人々への食料・エネルギーの供給など、日本の暮らしを支える大切な役割を果たしている地域です。こうした地域を支えてきたのは、集落ごとの「コミュニティ（つながり）」です。京丹後市では昔から、隣近所で助け、支え合い、人と人とのつながりを育んできたことが、「長寿のまち」や「人の温もりを感じるまち」といった、まちの大きな魅力につながっています。

しかし今、「地方」では、都市部への人口流出、高齢化・過疎化の進行が止まらず、これまで当たり前だった支え合いの仕組みが維持できなくなるなど、地域活力の低下や山林の荒廃を招いています。

こうした状況を打開し自らの手で地域の暮らしを守ろうと、全国各地で小学校区単位など、集落という単位を超えた広域の地域コミュニティ（地域運営組織）の形成が進んでおり、その数は令和6年9月1日現在で8,193組織と年々増加しています。

京丹後市においても、「新たな地域コミュニティ＝新コミュ」と銘打って、若者や女性など多様な主体が参画し、地域ごとの特性や強みを活かしながら、集落を超えた広域的な地域コミュニティの形成や運営に取り組んでおり、地域おこし協力隊やふるさと納税など多様な制度を活用しながら、人材や資金を呼び込むことによって、地域課題の解決や持続可能な地域づくりに向けた取組みを展開しています。

そこで、こうした取組を実践している住民、自治体、有識者が一堂に会し、人口減少社会において集落を超えた広域的な地域コミュニティによる活力の創造と自立、多様な人材・資金の循環をテーマに議論を深めるとともに、「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」の理念に基づく、流域連携の必要性を全国に広く発信することを目的に、シンポジウムを開催します。

主 催

第17回全国水源の里シンポジウム実行委員会 一般財団法人自治総合センター

協 賛

全国水源の里連絡協議会

後 援

内閣府、総務省、農林水産省、国土交通省、京都府、全国市長会、全国町村会、一般社団法人全国過疎地域連盟、全国山村振興連盟、全国森林組合連合会、全国漁業協同組合連合会、全国内水面漁業協同組合連合会、独立行政法人水資源機構、一般社団法人全国浄化槽団体連合会、特定非営利活動法人中山間地域フォーラム、特定非営利活動法人地球緑化センター、全国水源林造林協議会連合会、水資源保全協議会、日本青年団協議会、公益社団法人大分県薬剤師会、毎日新聞京都支局、朝日新聞京都総局、北近畿経済新聞社、産経新聞社京都総局、京都新聞、(株)時事通信社京都総局、NHK京都放送局、KBS京都、特定非営利活動法人京丹後コミュニティ放送、朝日放送グループホールディングス株式会社、読売テレビ放送株式会社、京丹後市区長連絡協議会、京丹後市商工会、丹後地区森林組合、社会福祉法人京丹後市社会福祉協議会、京丹後市観光公社、近畿地方環境事務所

(順不同)

お問い合わせ

第17回 全国水源の里シンポジウム実行委員会 事務局

京丹後市 市長公室 地域コミュニティ推進課

TEL:0772-69-1050 FAX:0772-69-0901 E-mail:chiikicom@city.kyotango.lg.jp